白波爲六
順從彼乃
山界

順徳天皇御
八月

[illegible]

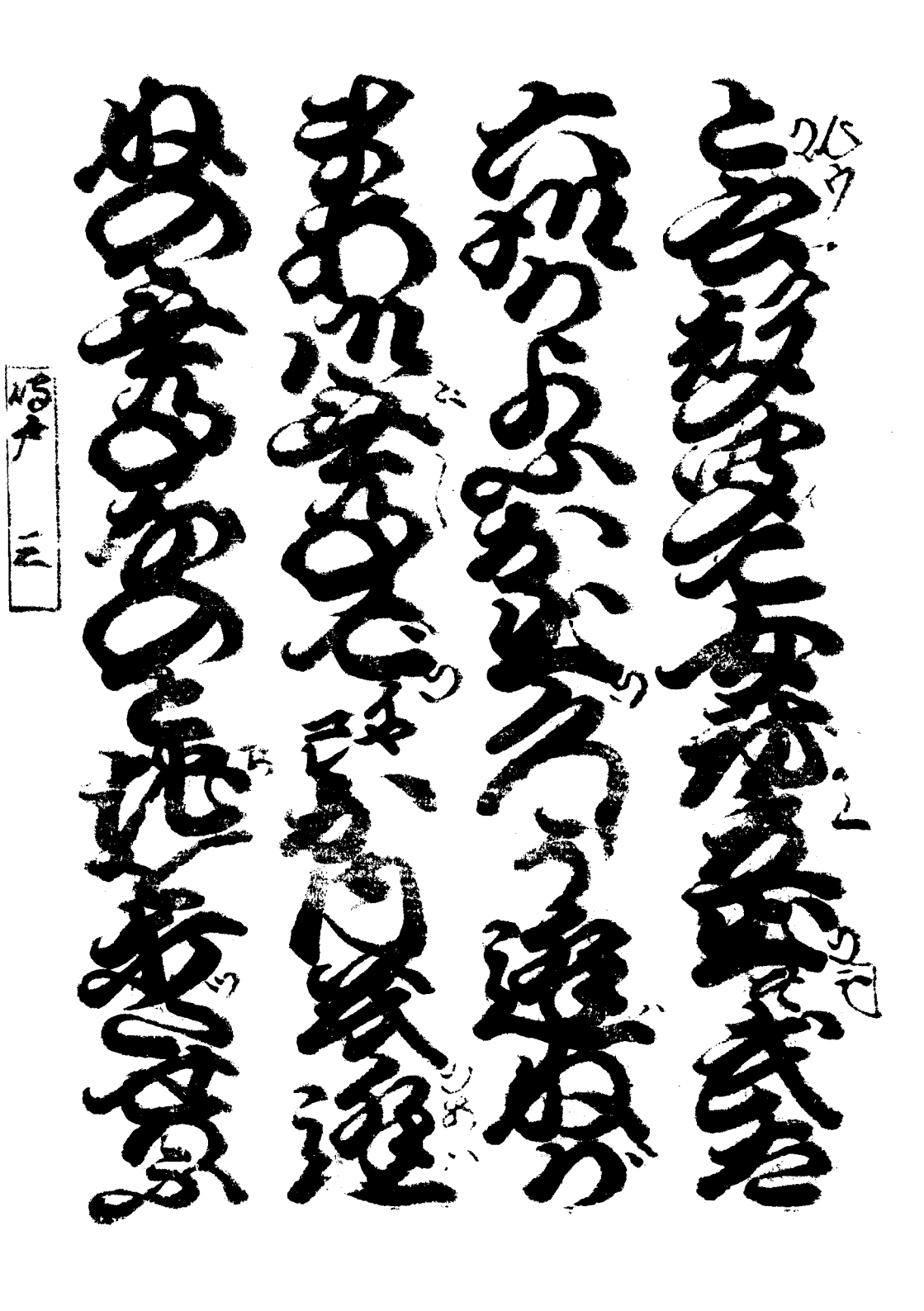
[illegible]

河内和泉摂津

[illegible]

今宵は月の光の
なかりせば
いとかくまでは
思ひそめ
ましを

沼戸一人蔵

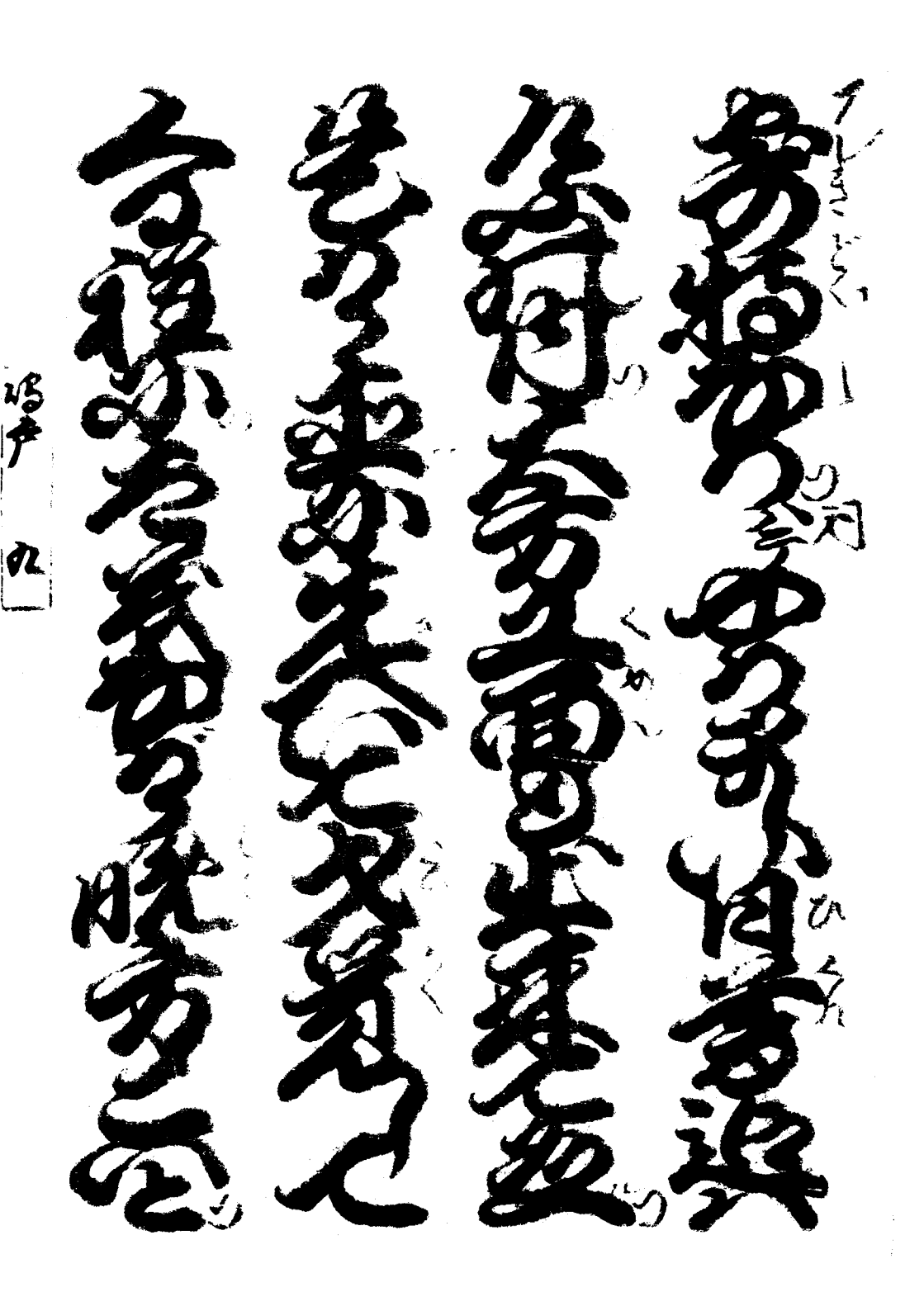


WB
12

今世の人は
皆悪縁に
引かれて
悪道に
堕ちて
苦しみ
悪道に
堕ちて
苦しみ
苦しみ
苦しみ
苦しみ

金剛心を行じ給へん
新たの無為の涅槃の
なかの方便法身尽
十方の衆生に
ひとしく

出方殿于所々探索有之処
殿于所乃文書之文宜
未乃知候得共常に要害之趣
與文乃卒見本乃念候



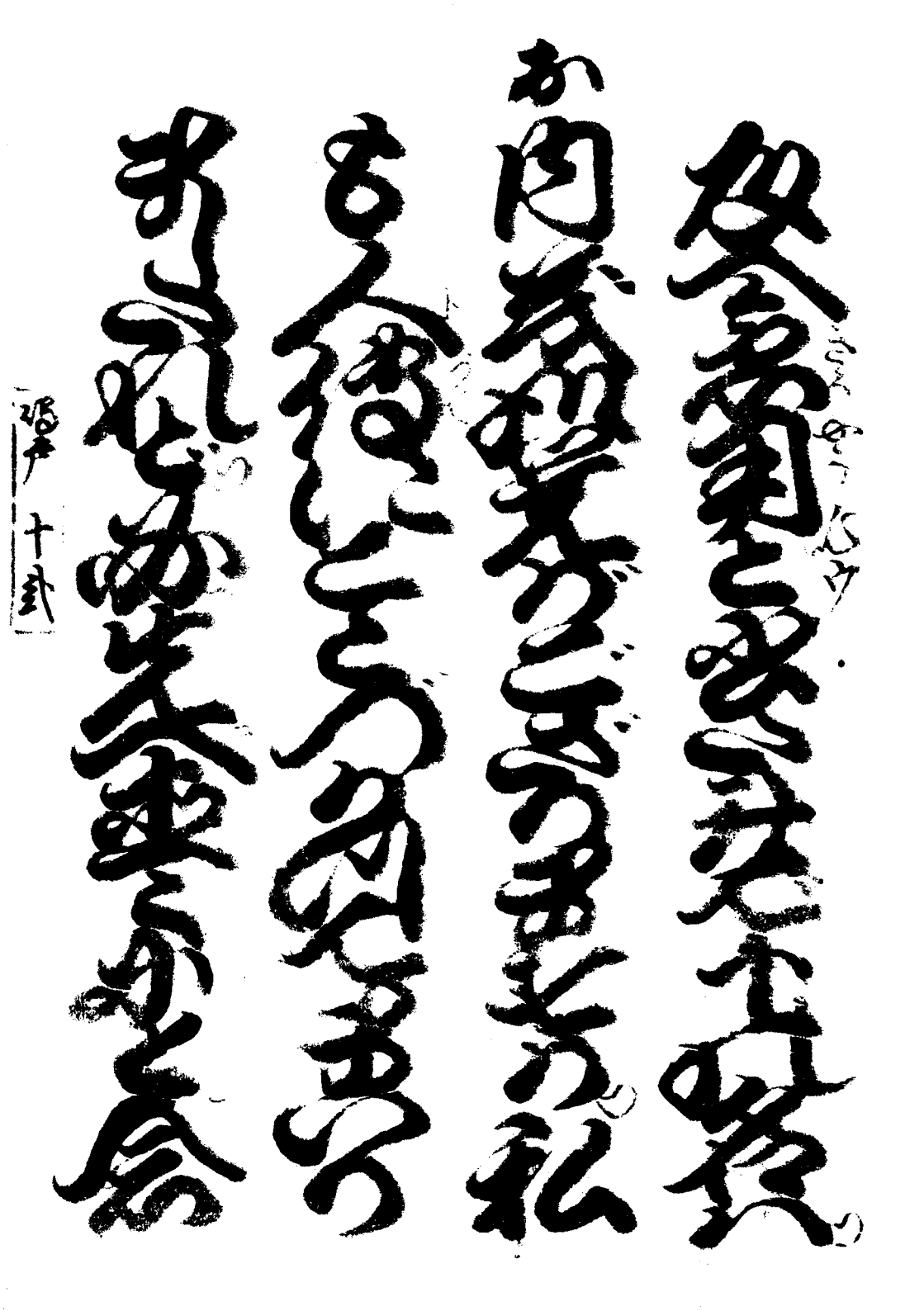
如來滅後五百歲中廣宣流布於閻浮提斷
絕惡魔若見有人善修習者當爲作障令
其退轉若能忍此者我當遣諸天龍夜叉
鬼神護其心腹乃至魔王魔民諸

道

昭和十七年

拓鶴

山遠の大いなる光を飛鄙
の人々家鍵を閉ぢ
子供は庫まを投出
一般の秀才まらず



金剛般若波羅蜜経
世尊須菩提
十方恒河沙等
如是諸菩薩摩
訶薩

[illegible]所
郷[illegible]国[illegible]
[illegible]
[illegible]

明治十四

文子帝家多の子孫
仏門多出門繁昌
所妻子兄弟親類
時々参詣今文殊

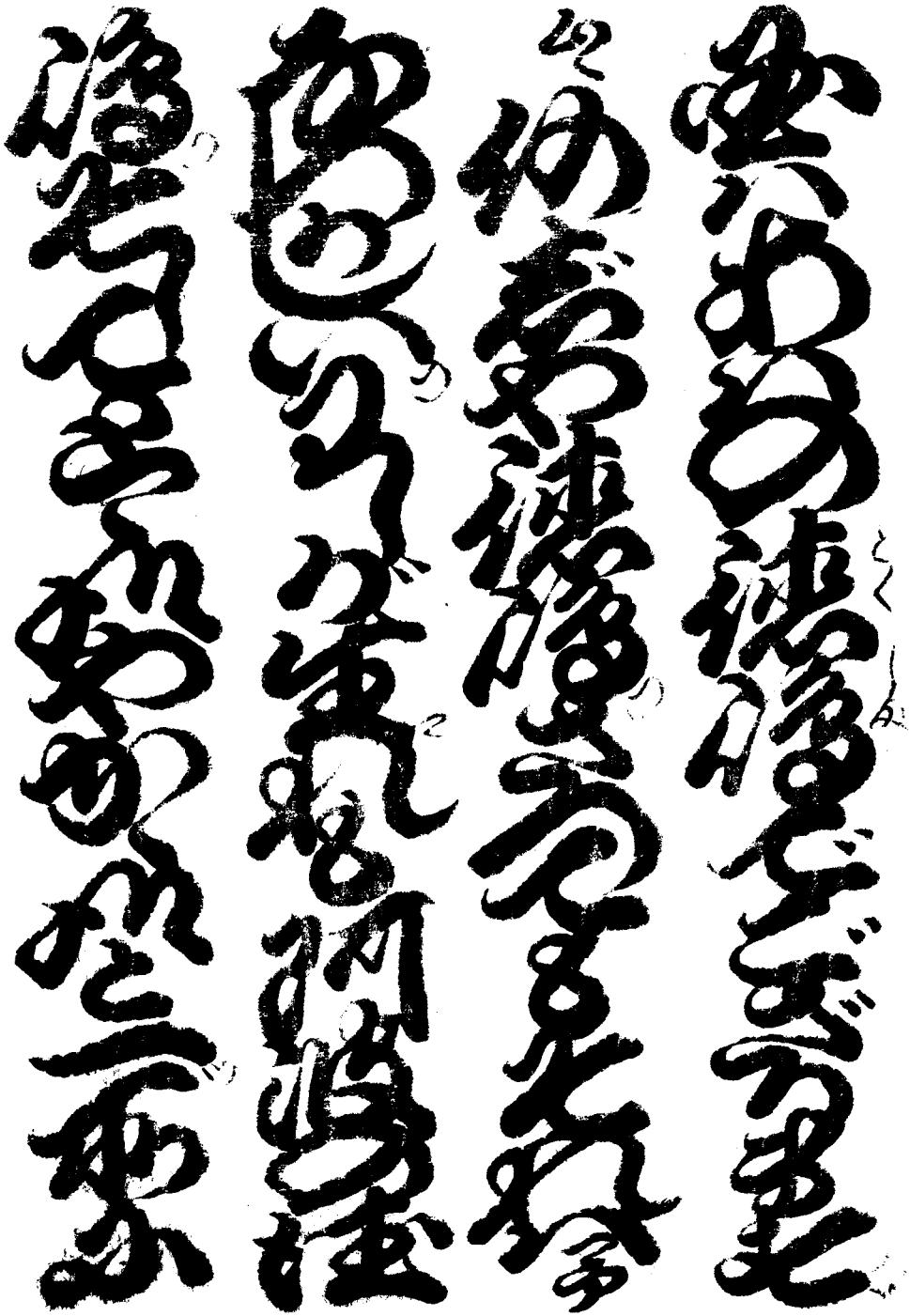
一切衆生悉有佛性如來
常住無有變易法僧亦復
如是是故我今歸命
三寶

多羅尼

唵阿羅婆羅

唵阿羅婆羅

唵阿羅婆羅

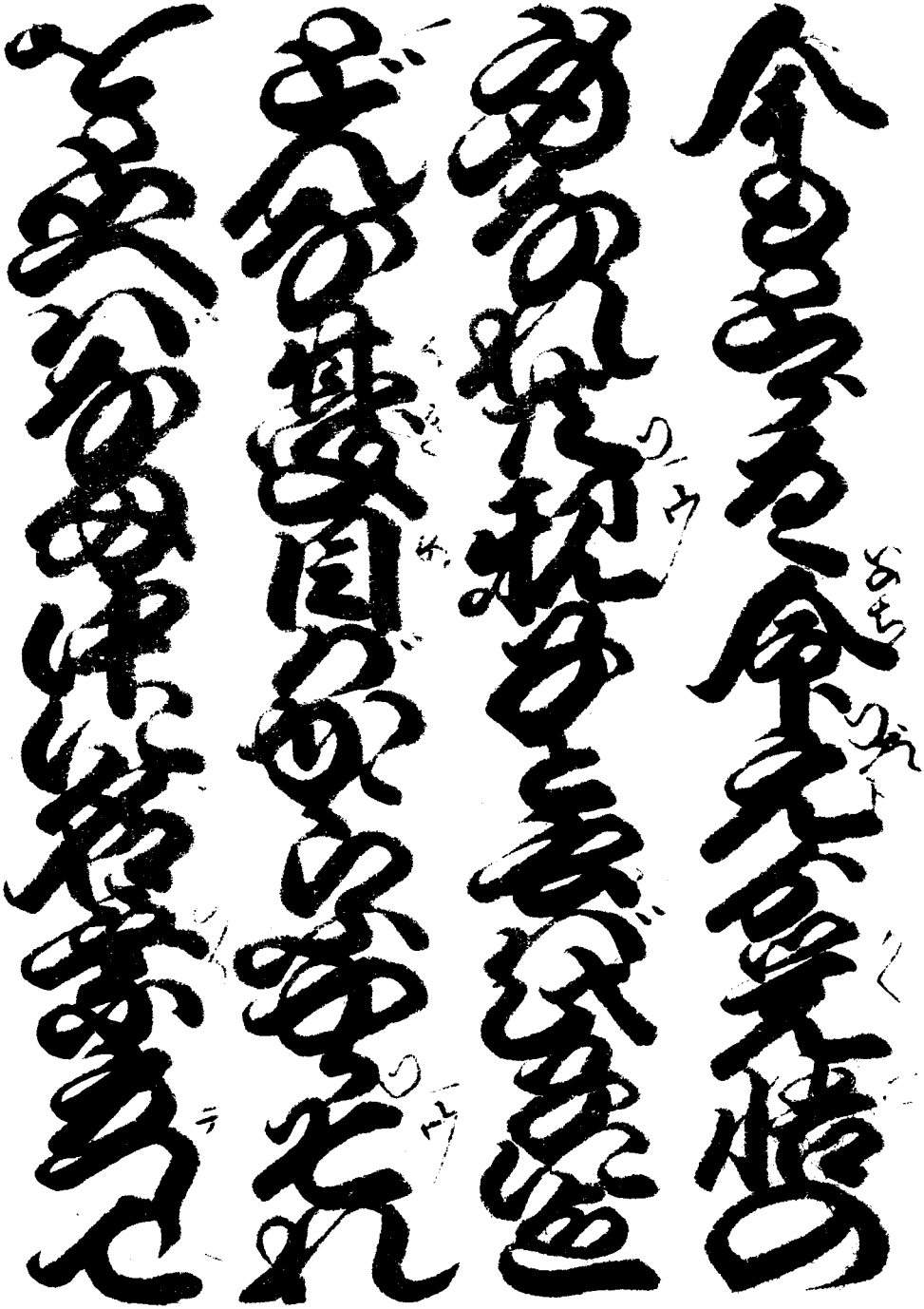


修行者の
道をまもるこそ
たのもしけれ。

ムシヒテ毛紙遣の名ハ伊とふ毛ふのアイ
そ物の兵十帝之

昭戸 九三

悉くに縁ひ奉る式燈
凡そ子孫繁昌家内
安穏疫病除滅すべし
災厄ガ消滅疾病



江戸 九五

憂目を見る者ども
修羅の巷に迷ひ
人と生まれかはり死にかはり
七苦八苦を味はふ

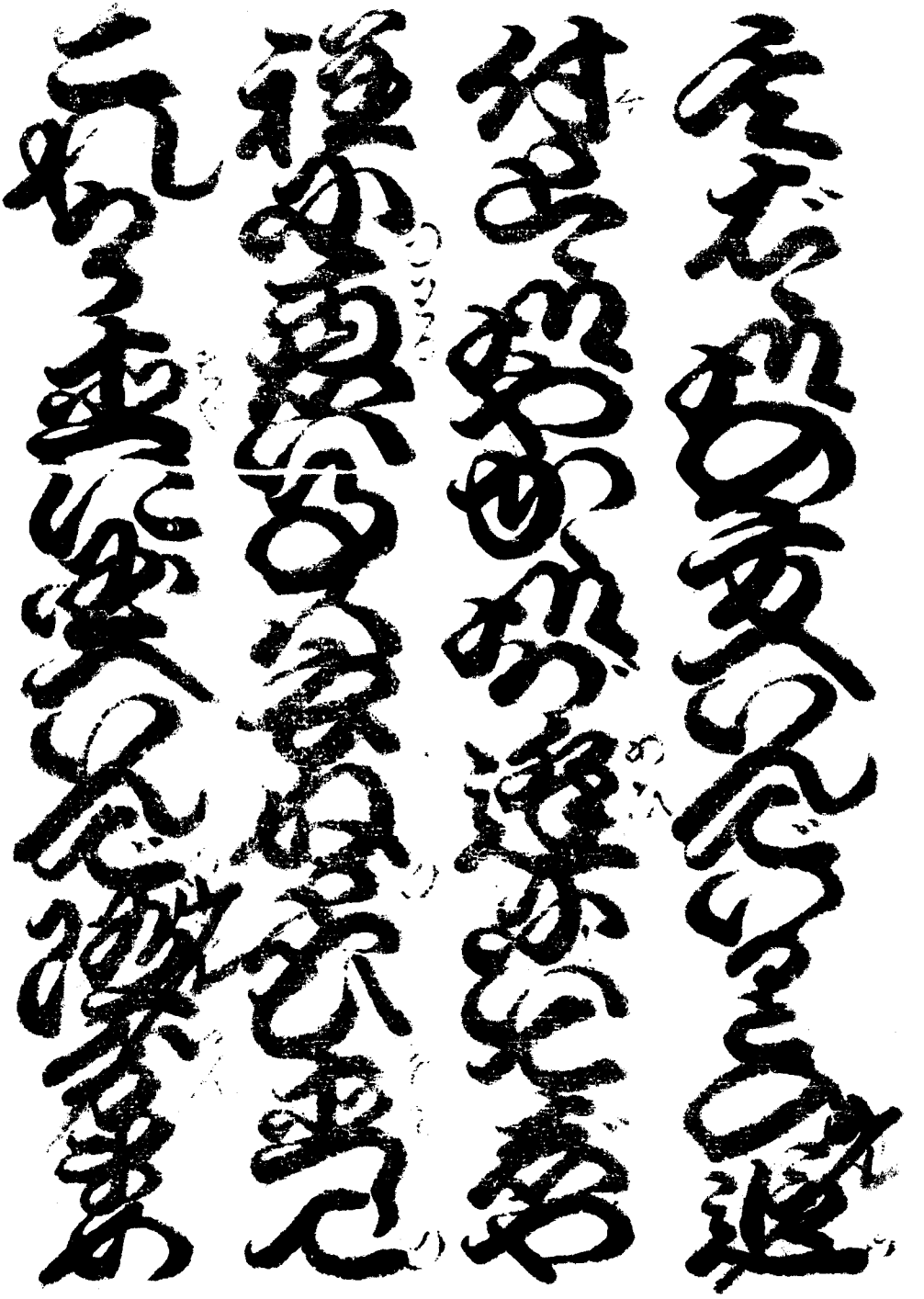
昭和 九月

昭和
九月

縁なれば救ひ給へ
ちからなき
ものなれば
ひとりの
ものなれば
ひとりの
ものなれば
救ひ給へ

昭戸 九六

角帝の御稚児を
愛せられ
[illegible]
[illegible]



昭和 九月

明戸　三十一

昭和二十年

○入

ゆゑ人線ごとに線分を

ふかうかれ者に迷路

線分を奥へかえる

だんなさまと親と浪人様に
嫁うごぞんじれば浪人の利とぶ
物とそんなれば分まえとの
まるぶんにまと恋ぞまま
鳴戸 三十弐

四戸　三十尺

昭戸　三十八

月の物を拾ひ集めて
いとうぶかくかくれ住む
二葉の花にまつわること
かなしきかぎりの不幸の姫

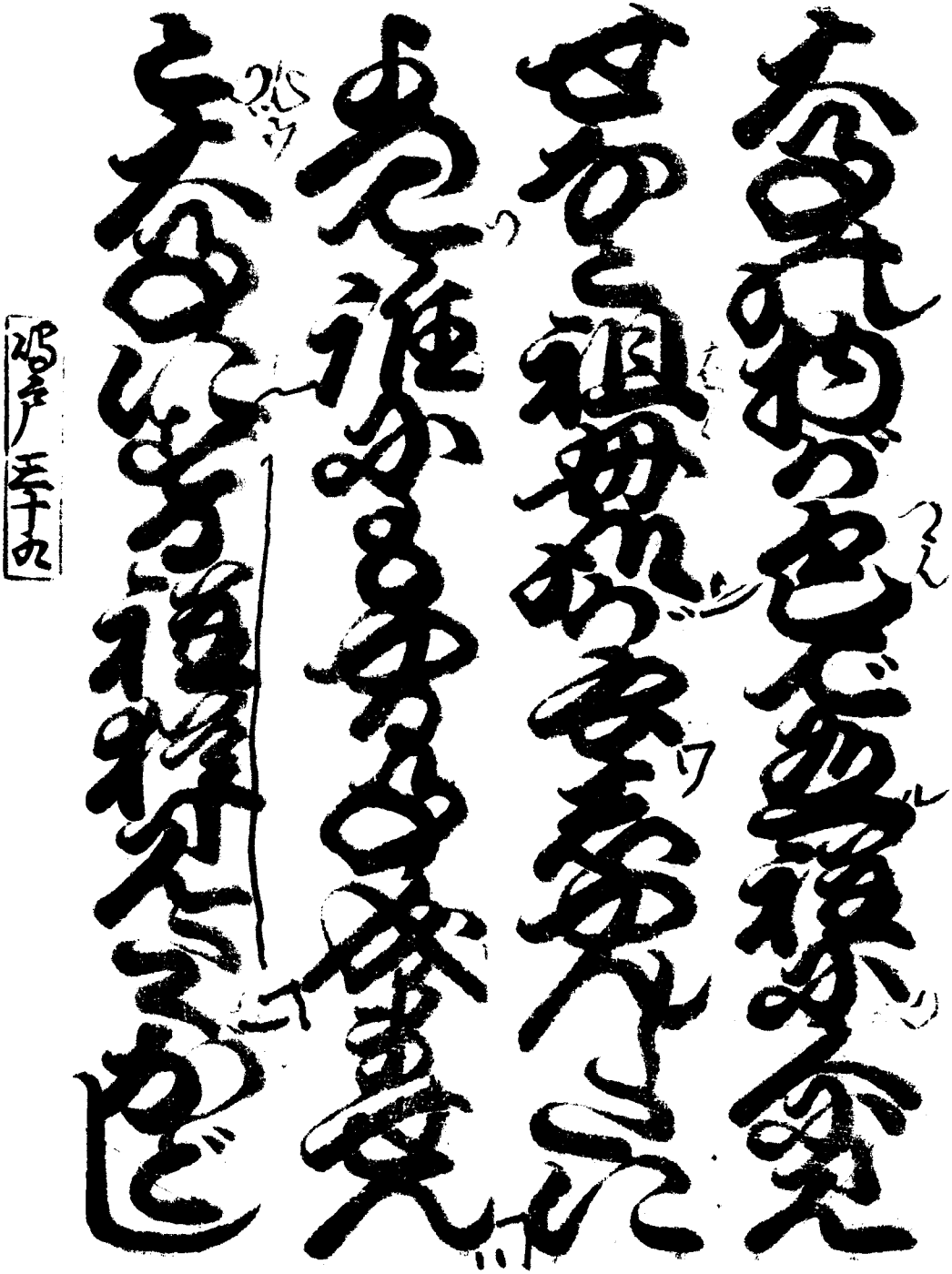
ままはは
おじいさま

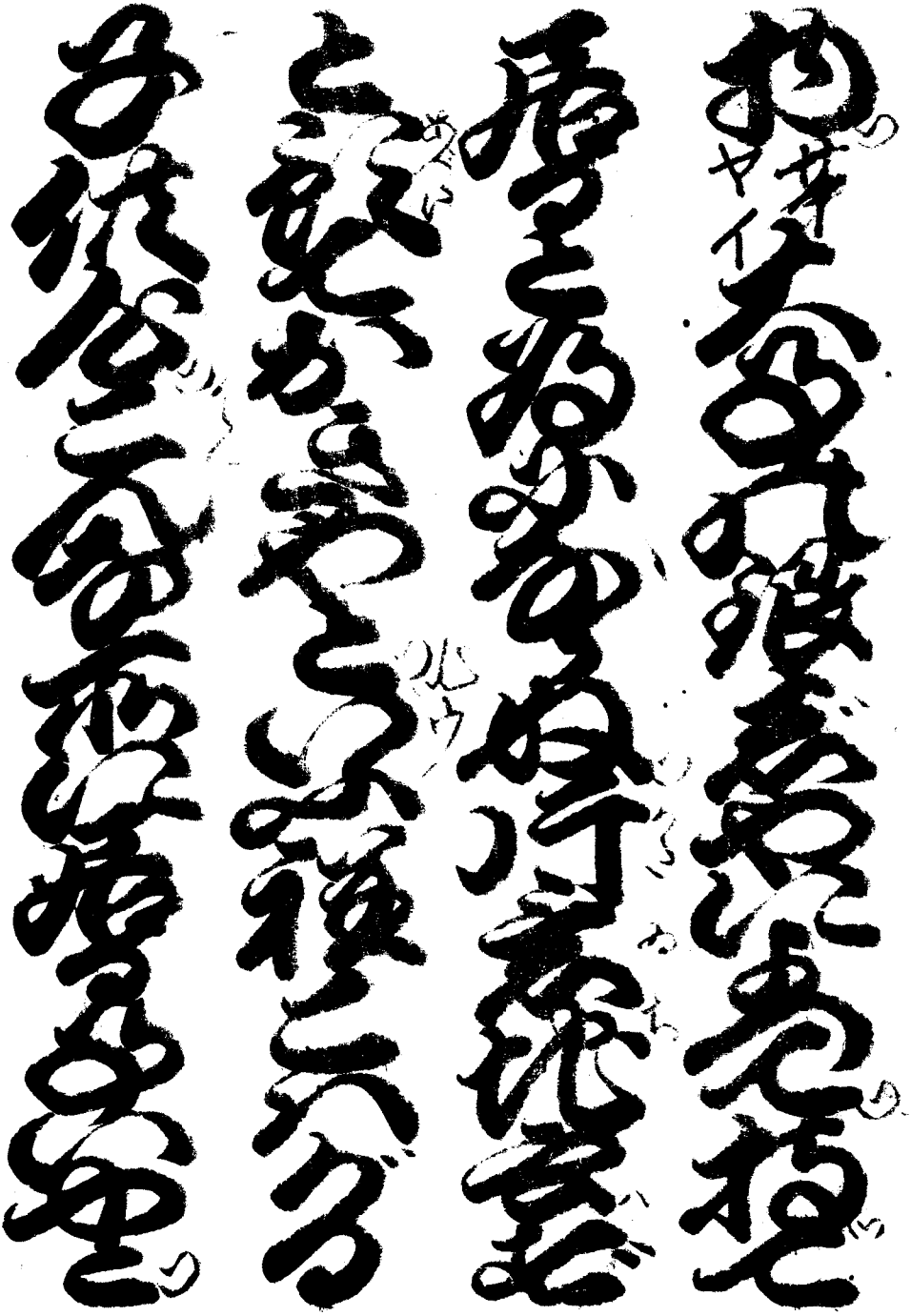
明治 三十六

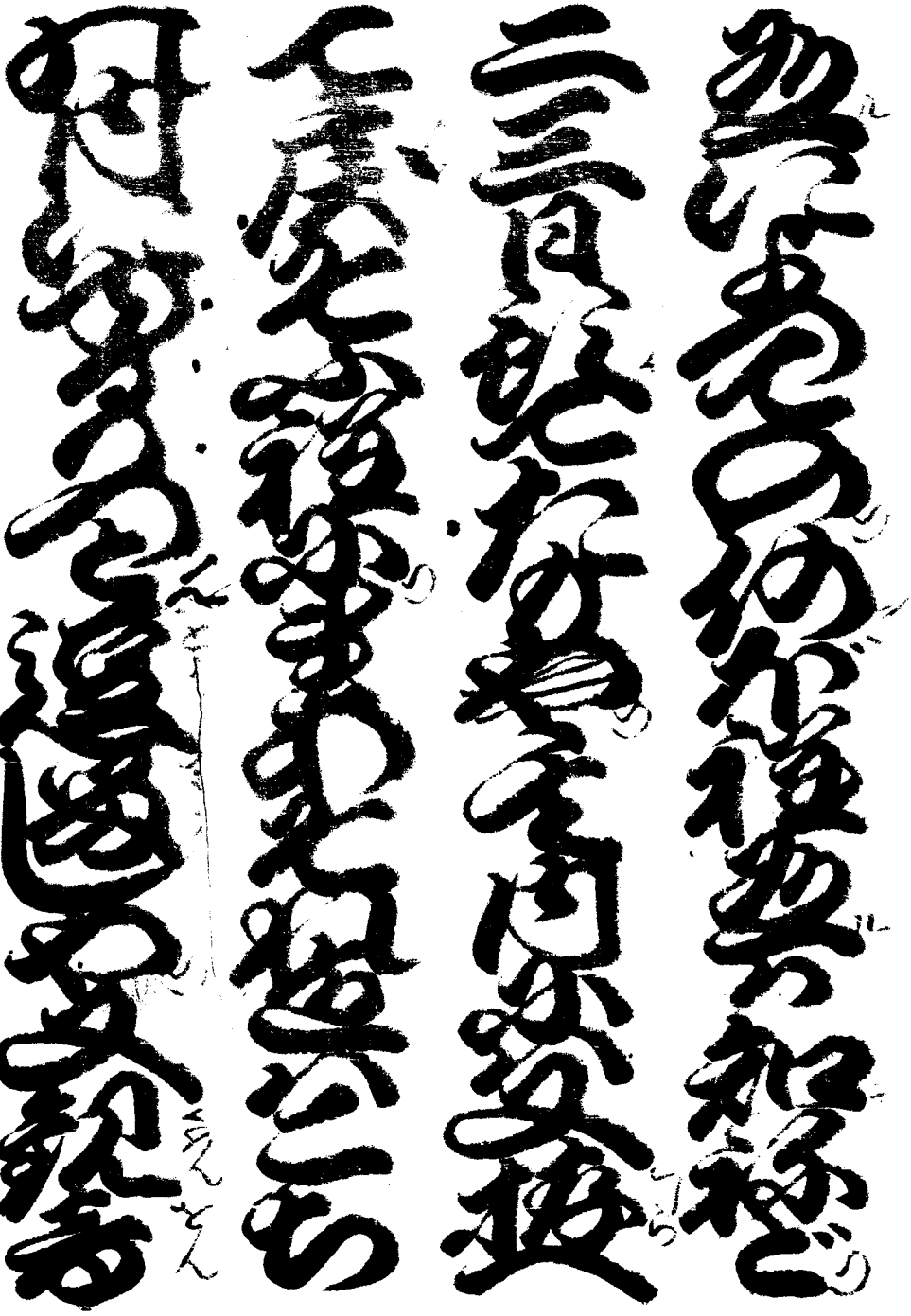
光陰矢の如し
刹那刹那
怒れば怒れば
三毒の

ちやアハ

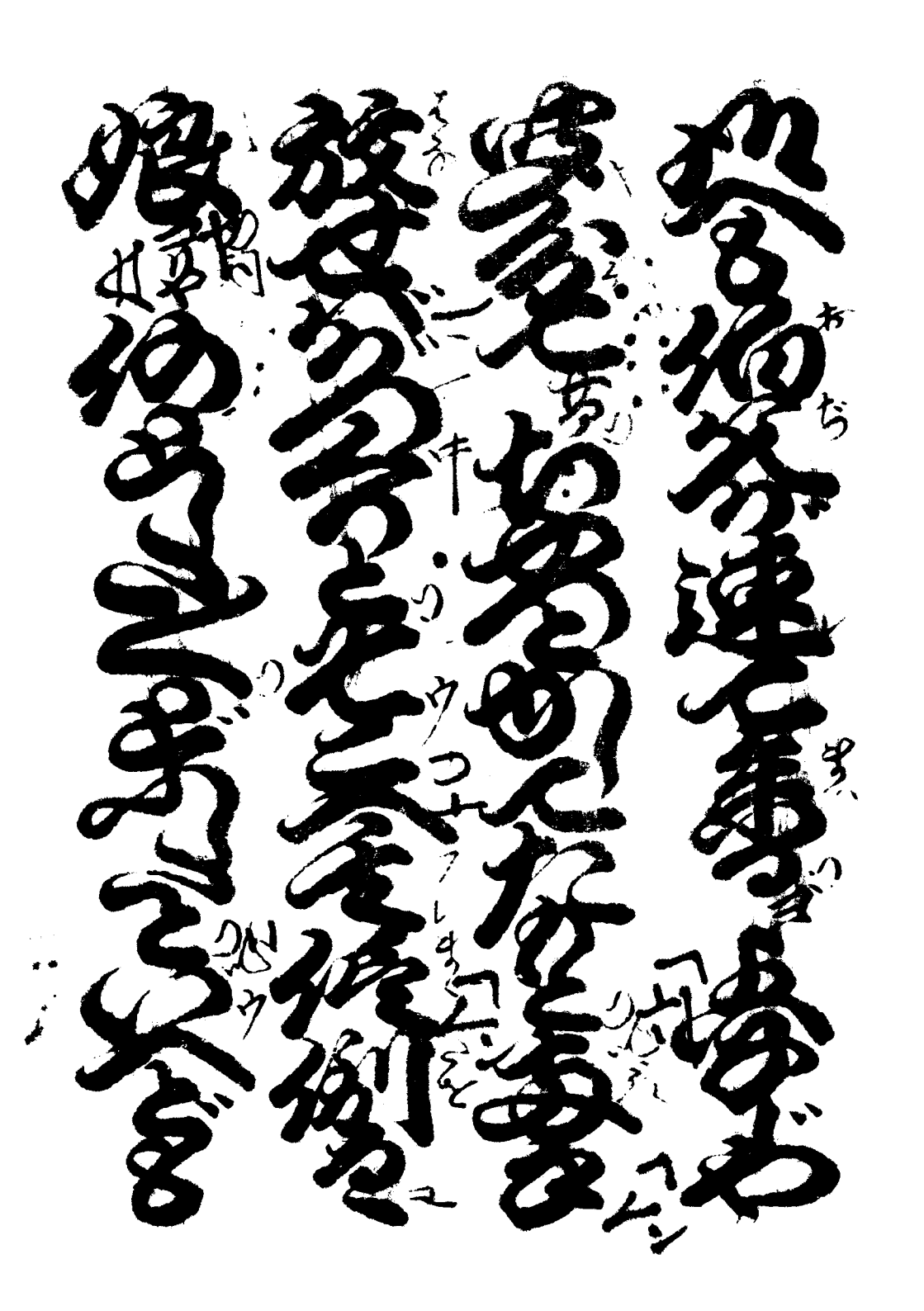
判ガ本当ニ小判ガ本当ニ
ヨウ出ル程ノ大金ヲ
見ズ知ラズノ子供ガ
拾ヒ集メテ来タ訳ガ







弘戸 四十壱

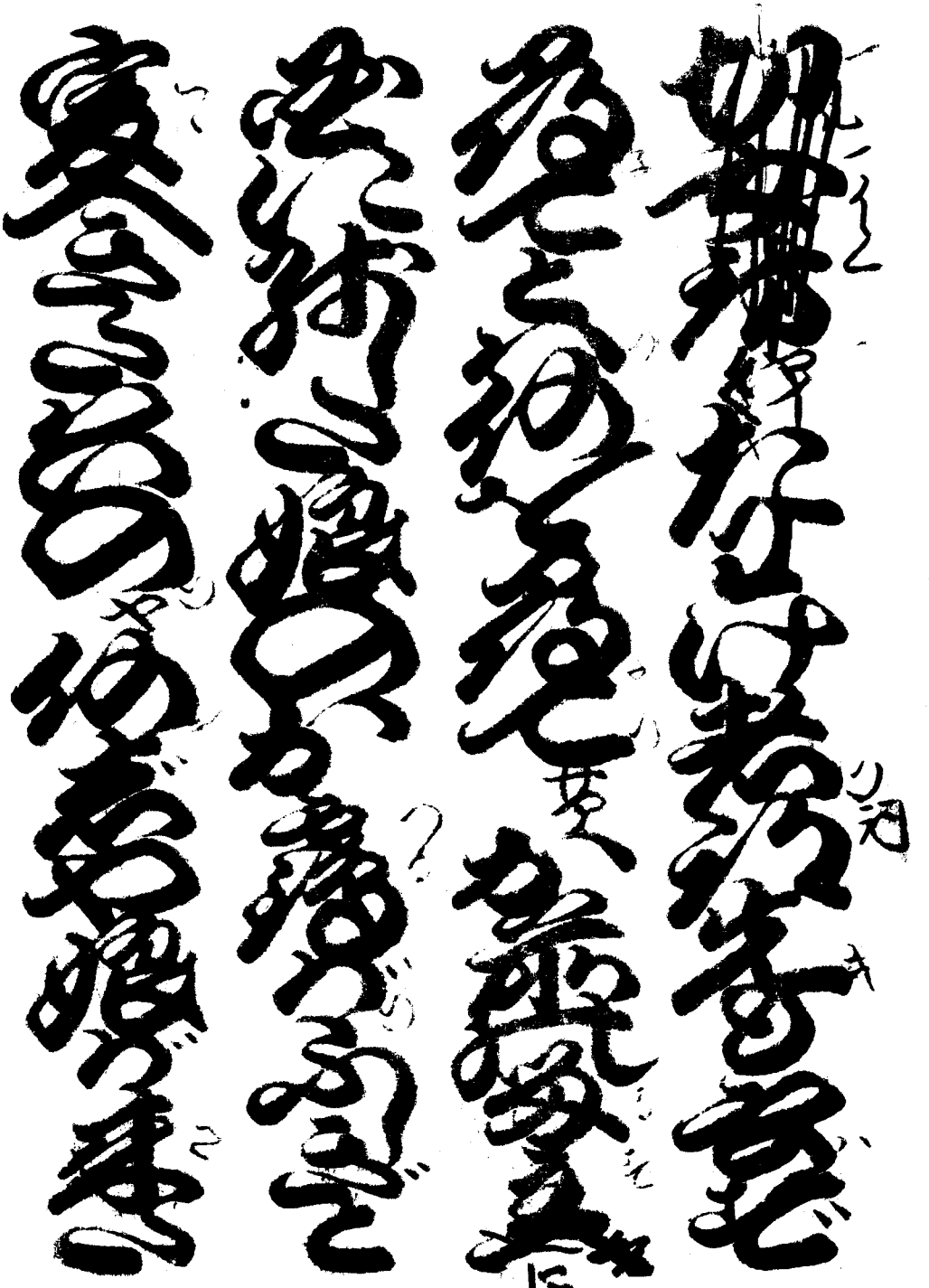


昭和四十年

ホイ
ちゃうかんぬ
ぎょうかんぬ
ぎょうかんぬ
ぎょうかんぬ
ぎょうかんぬ
ぎょうかんぬ
ぎょうかんぬ

心為
妻、母、子、兄、弟、家、親、
浦、安、死、勝、三、位、人、
女、孫、婦、子、ども、兄、弟、
今、如、孫、孫、ども、

四十三



冨戸　四十四

ヨリヤ大き
な声す
ないヤリ

それぞれ

それぞれ

昭和二十五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鳴戸 四十六

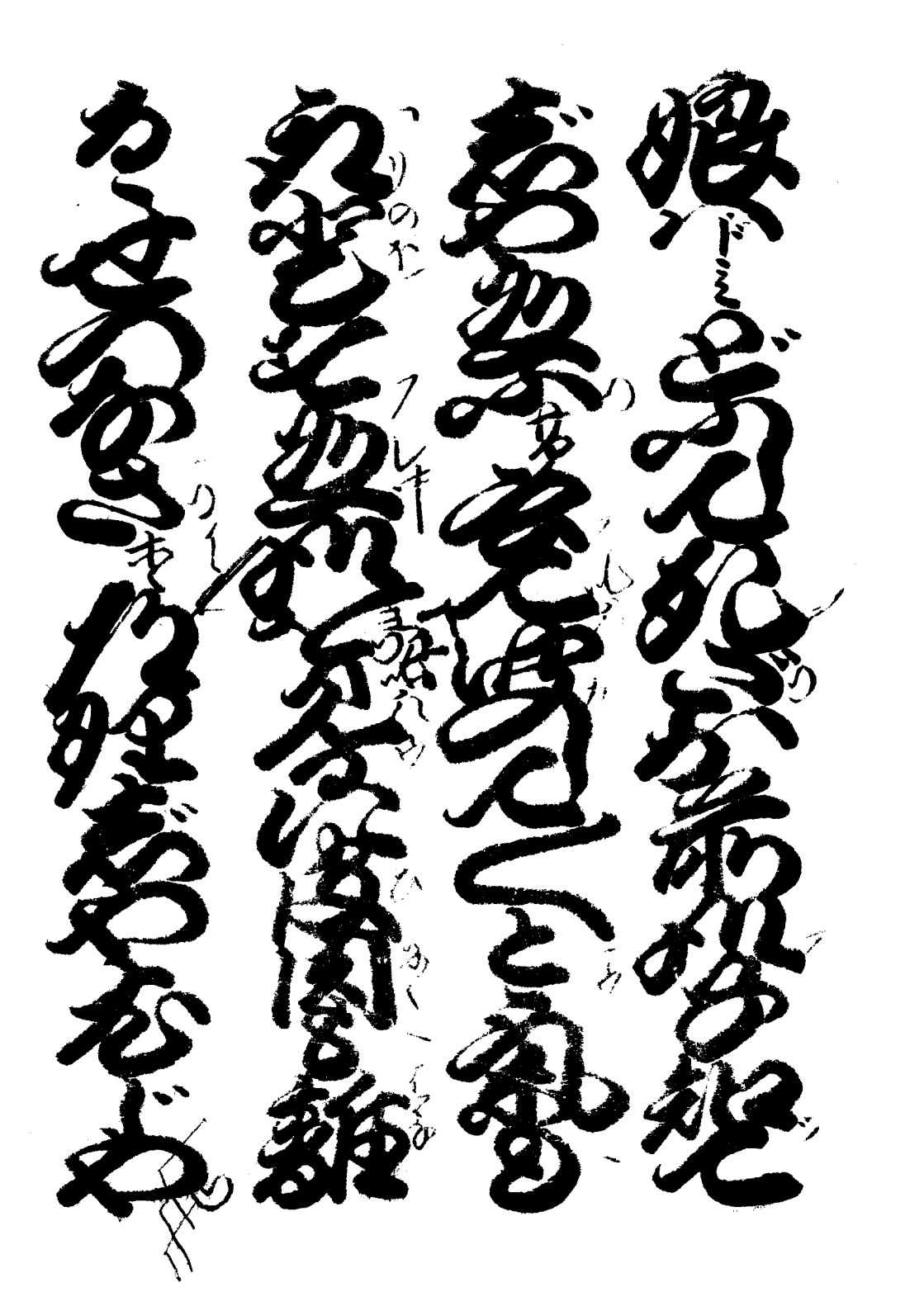
從夏至秋迄多之也

而貧雨漏雨漏本中茅芥

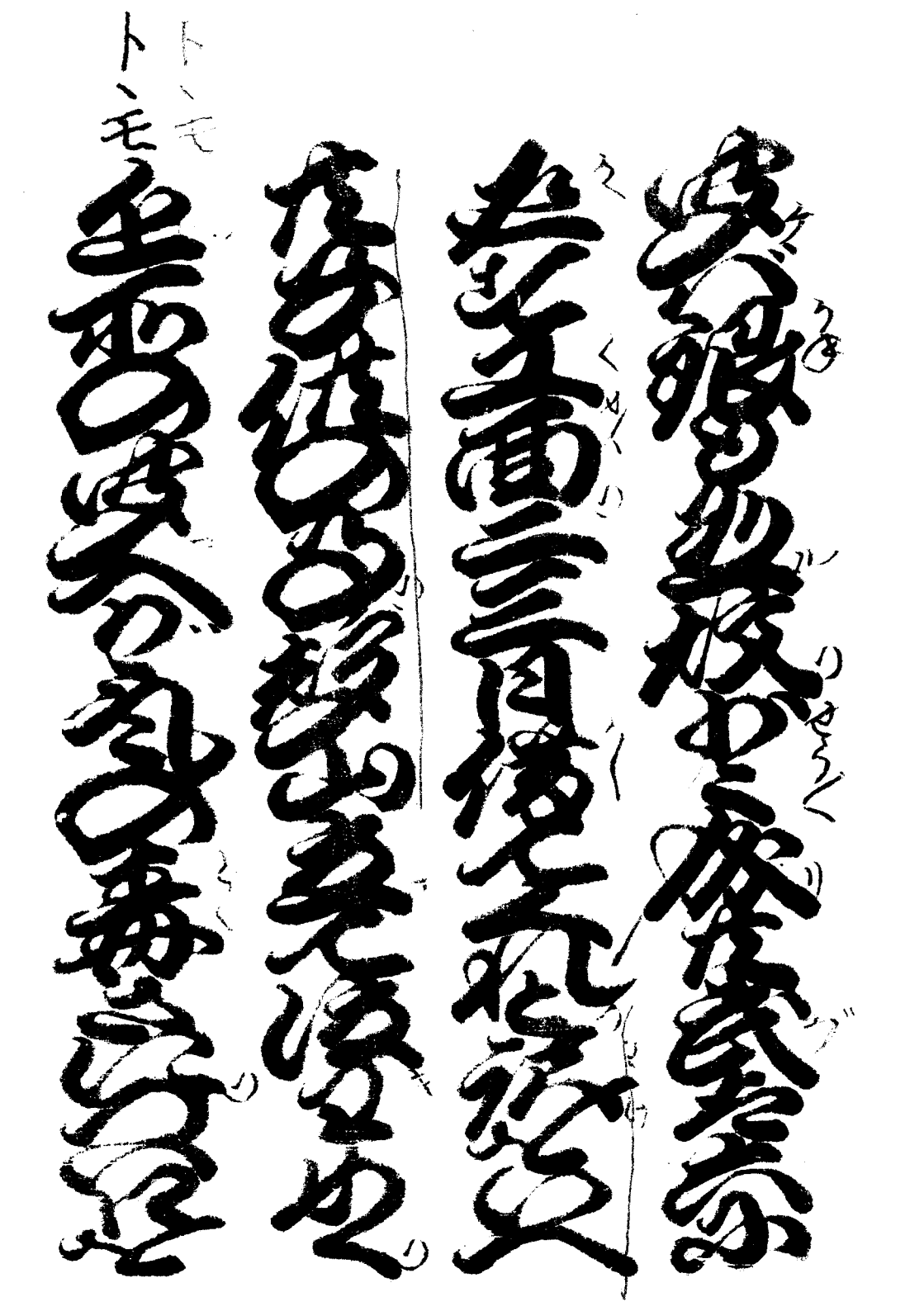
左右行疾痛之上泥

降入盆時不済哉所哉

いとゝ國とゝ孝行を
慢ずるもいとゝ
多き者さかをゝ
ちゝまゝ孝行ぶり

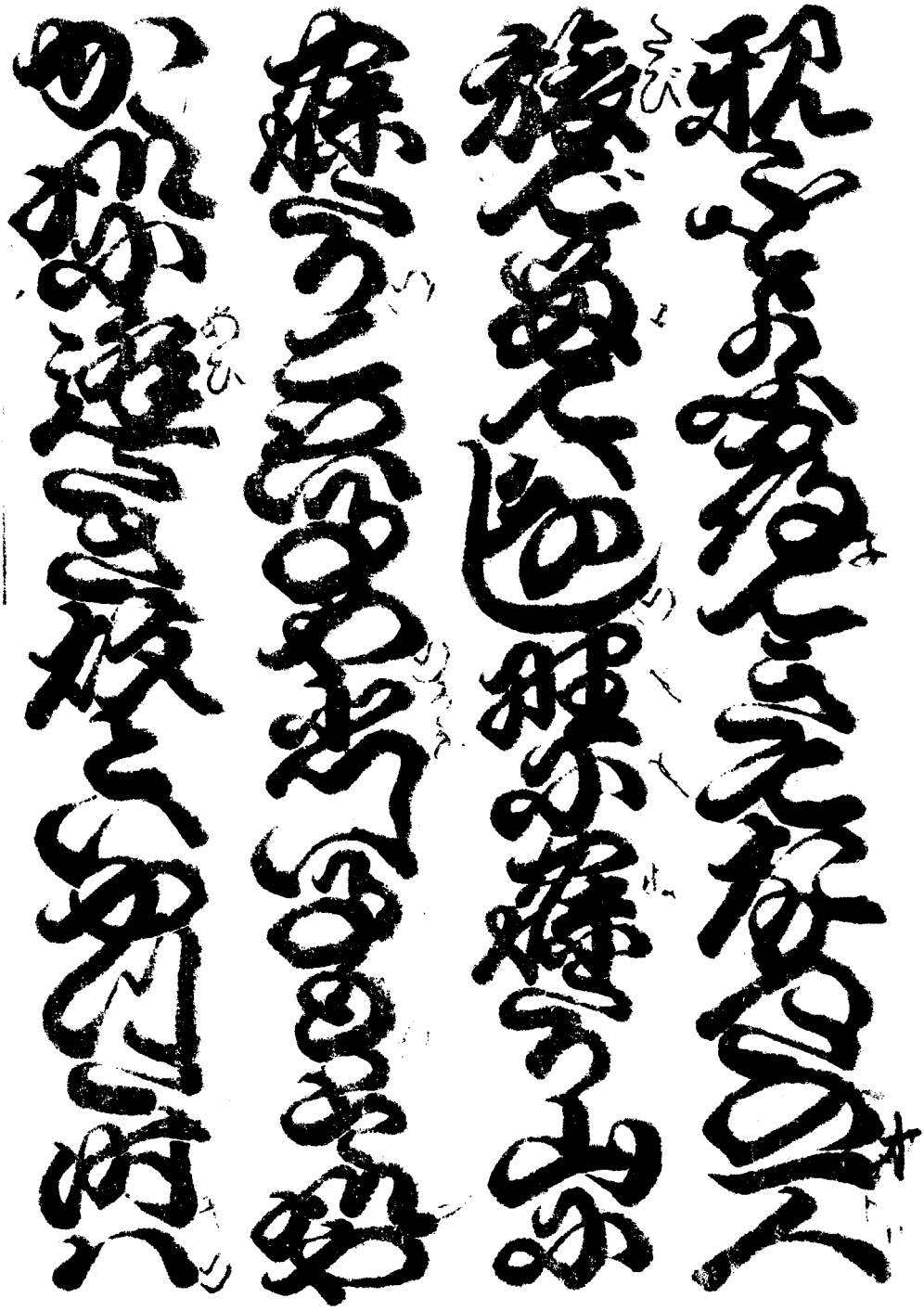


[illegible]



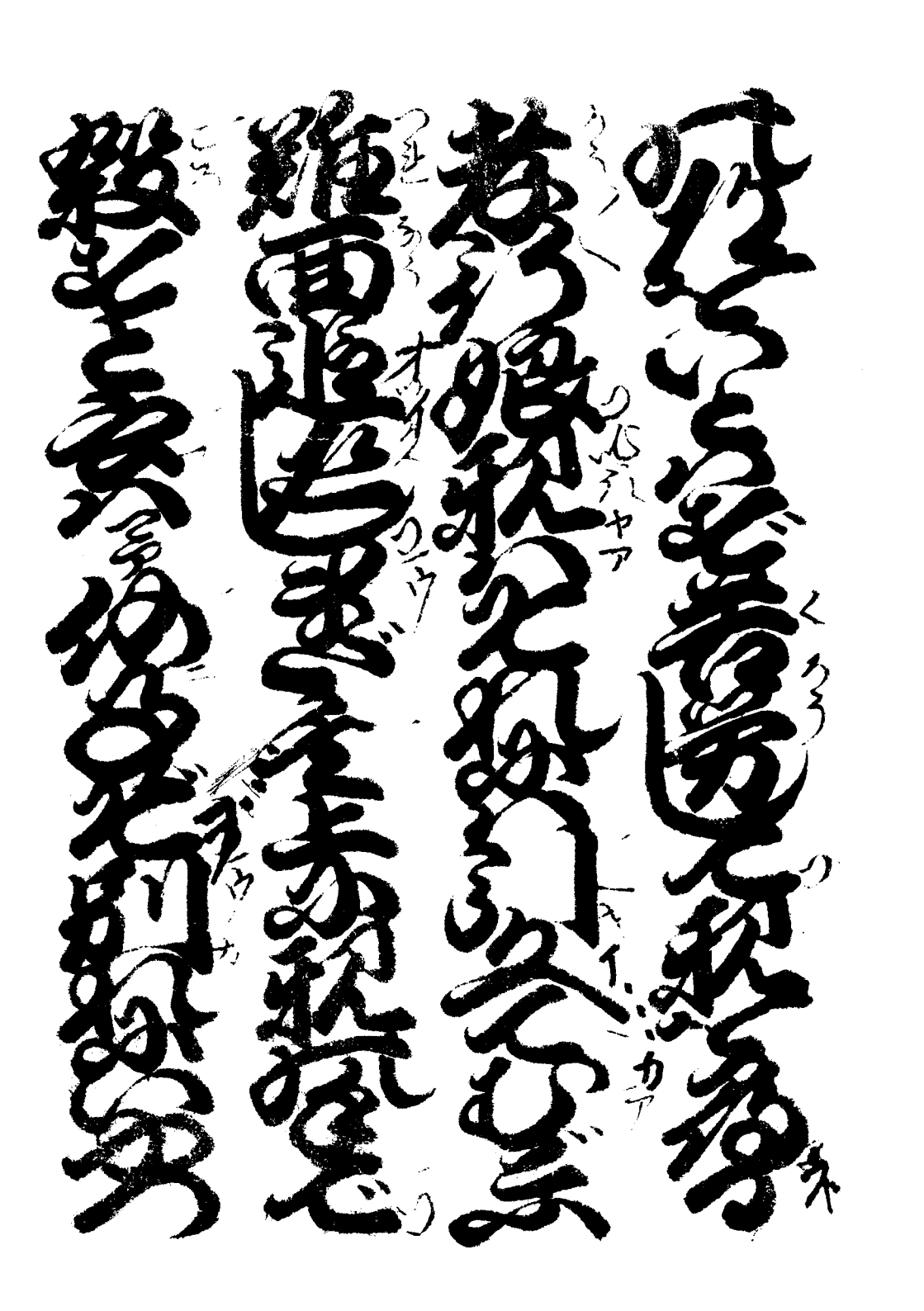
明治五十三年

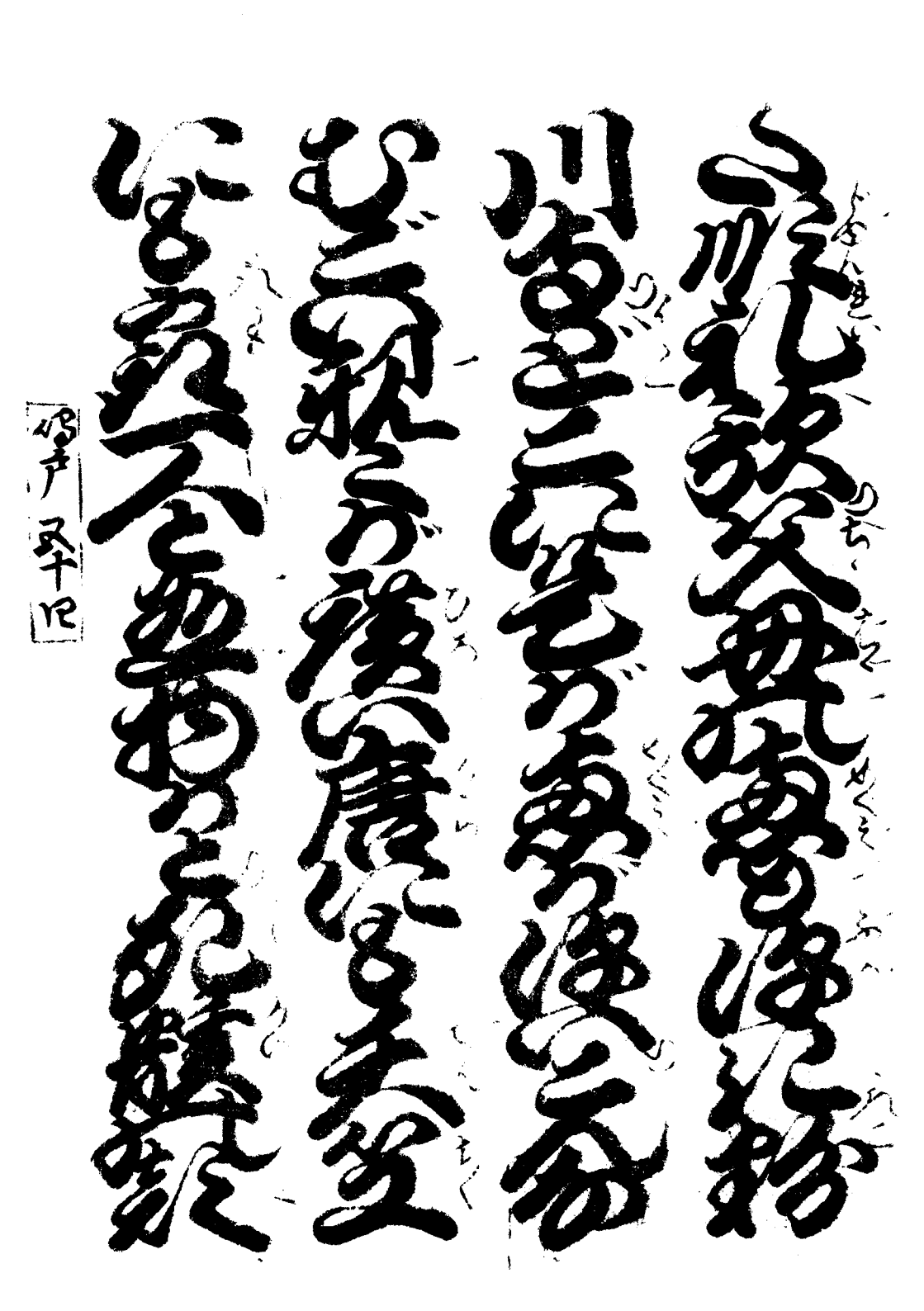
寄之後須覆者存之道
至命者か義殺之貴者元
仁者殺之生雖死不生者
毋死殺乾上寄腹之資む之



昭戸 四十弐

くるか
ゆうえんちの
ゆうれいが
ナニ
ゆれるそこを
くらい
ゆうれいが
いる
ゾロゾロ
ゆうれいが
ゆうれいが
にくいうらめしや
ゆうれいが





場戸 五十五

かんぐそ

国果長門紙絹特産品

義政家紋瓦

世の海と材料切瓦

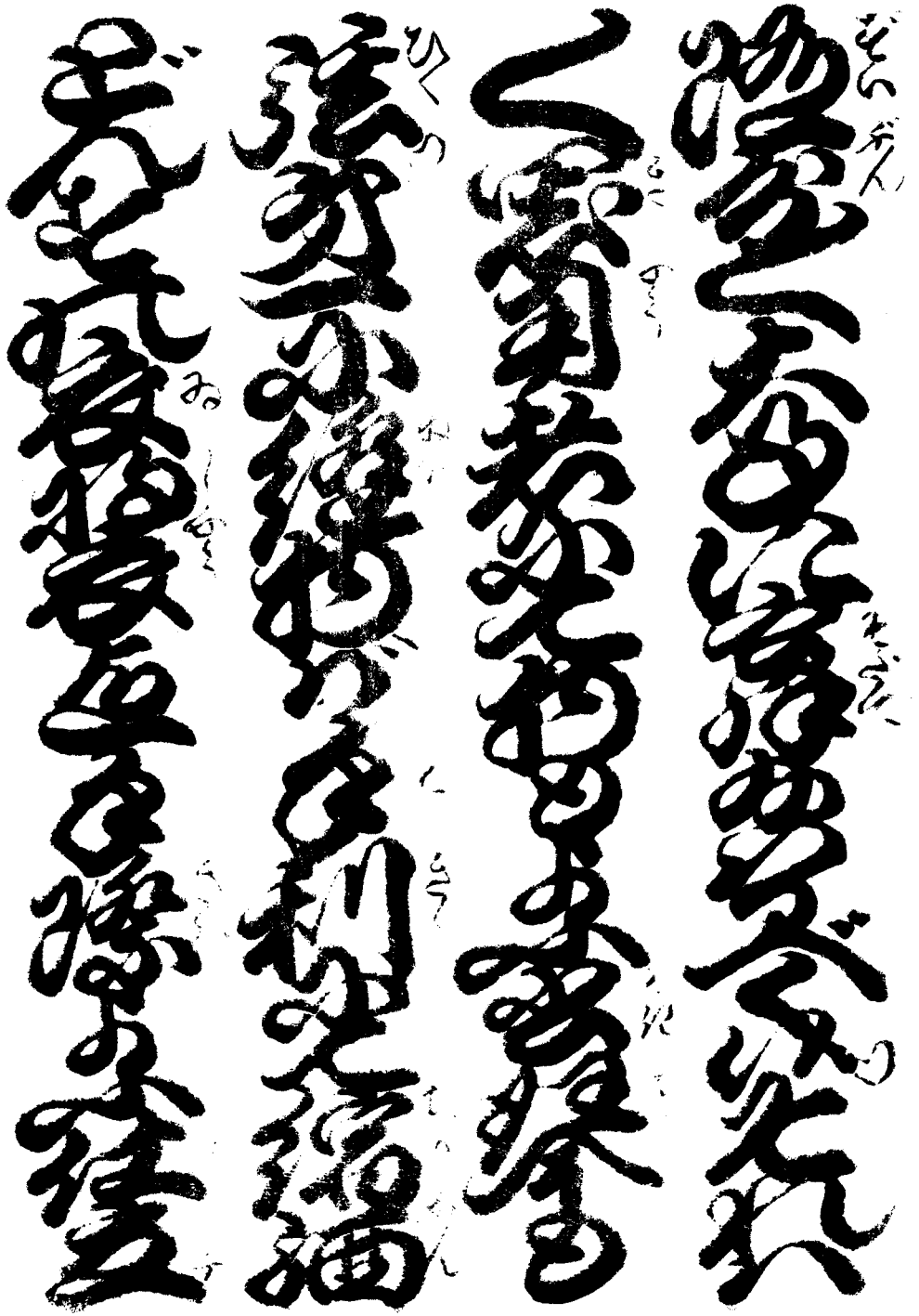
くの字道路遠三重

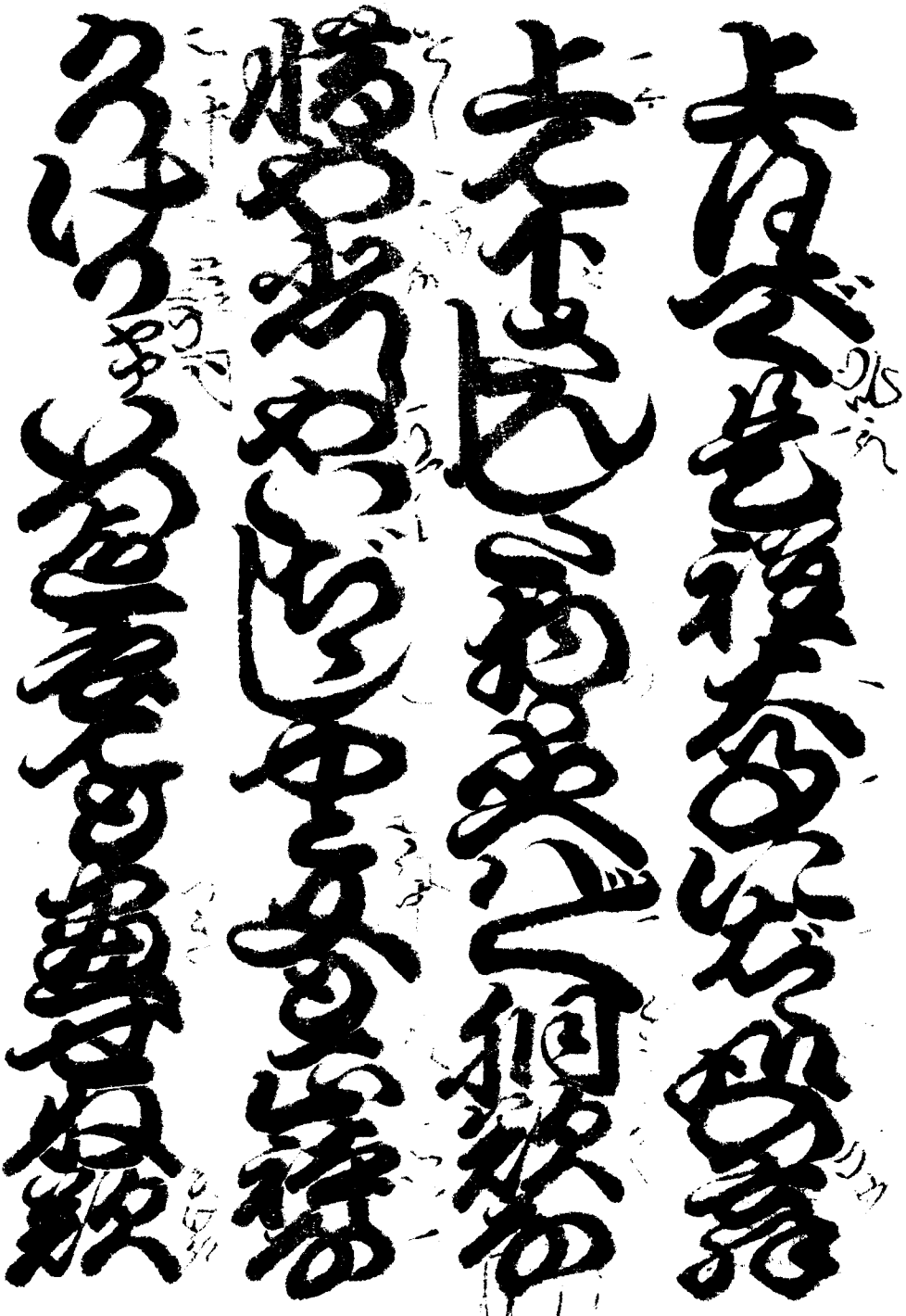
[illegible]

明戸　又十八

世間の人の愛欲多き故に
かゝる邪見の風俗を
ゆるし別の妻を娶ることを
えたかるべからず

唱声　又十九





昭和 六十壱

刀剣家相上様御代後
先祖ゆゑ知れず諸家系
さうぐ人数多年所之者
分身家の系図あり

捕ヒ遠ヒ九ヒ切ヒ金巻ヒ
刀ヒ弐ヒ人ヒ内ヒ切ヒ切ヒ
ヒ殺ヒ死ヒ殺ヒ人ヒ金ヒ
ヒ三ヒ百ヒ円ヒ金ヒ強ヒ

伊 六十五

がくなるいのちをすてゝ菩提
をとうけ出りまるまゝ菩提
をうけ出りまるまゝ菩提
をうけ出りまるまゝ菩提
をうけ出りまるまゝ菩提

ねケ王

嚴[illegible]

也[illegible]

の受[illegible]阿[illegible]

な[illegible]

如声 六十[illegible]

勝昇 [illegible]

昭和百拾年

古山 山昇